

# 安達太良山

## 概況

火山活動に変化はなく静穏に経過しました。

### ・地震活動（図2～3）

火山性地震は3回（9月1回）と少ない状態が続いています。

火山性微動は観測されませんでした。

### ・噴煙活動（図4）

遠望観測（監視カメラ）では、沼ノ平火口付近の噴気は観測されませんでした。

### ・地殻変動（図5～6）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は観測されませんでした。

### ・熱活動（図7～11）

現地観測の結果、沼ノ平火口付近の噴気・地熱地帯の状況に変化はなく静穏な状態でした。また、地磁気全磁力観測によると、沼ノ平火口付近の地下で、わずかな冷却を示す変化が継続しています。

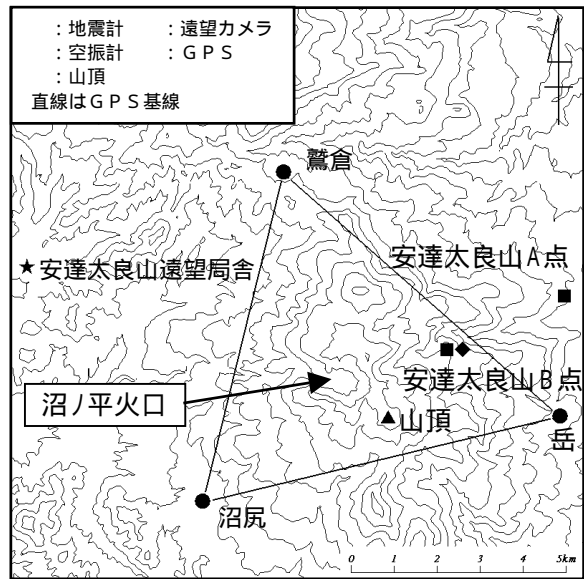


図1 安達太良山 火山観測点配置図

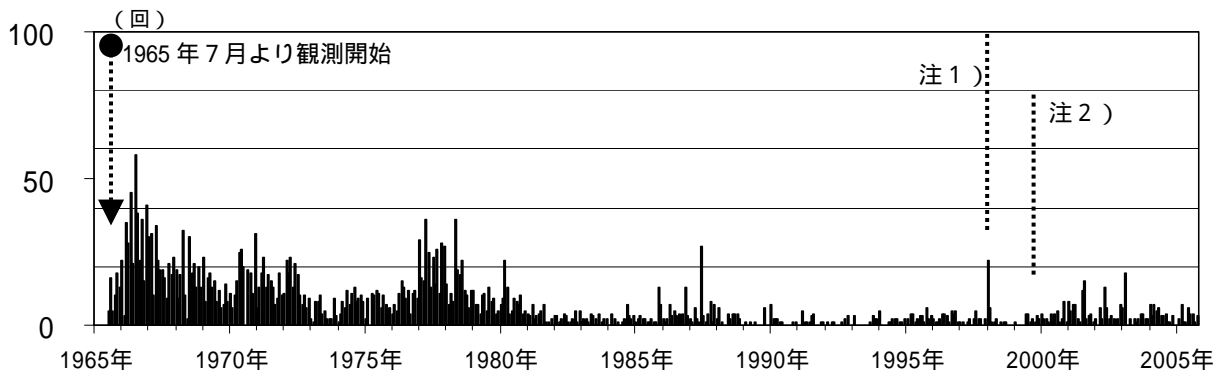


図2 安達太良山 月別地震回数（1965年7月～2005年10月）

注1）1998年より検測基準変更 注2）1999年10月に観測点移設。

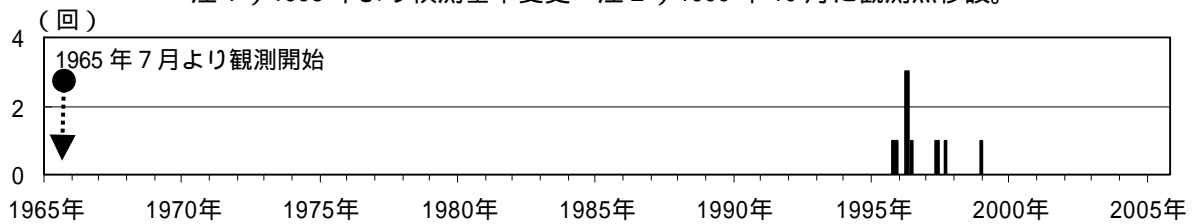


図3 安達太良山 月別微動回数（1965年1月～2005年10月）

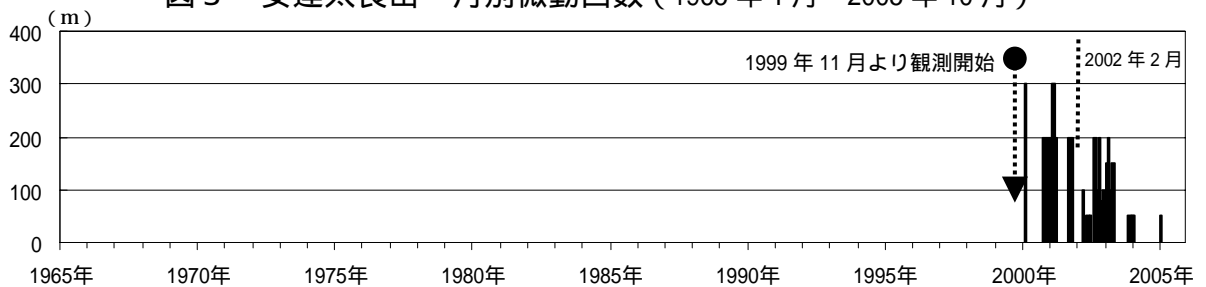


図4 安達太良山（沼ノ平） 月別噴気の高さ（1999年11月～2005年10月）

2002年2月以前は定時及び随時観測データ。2002年2月以降は収録データにより全ての時間を精査。

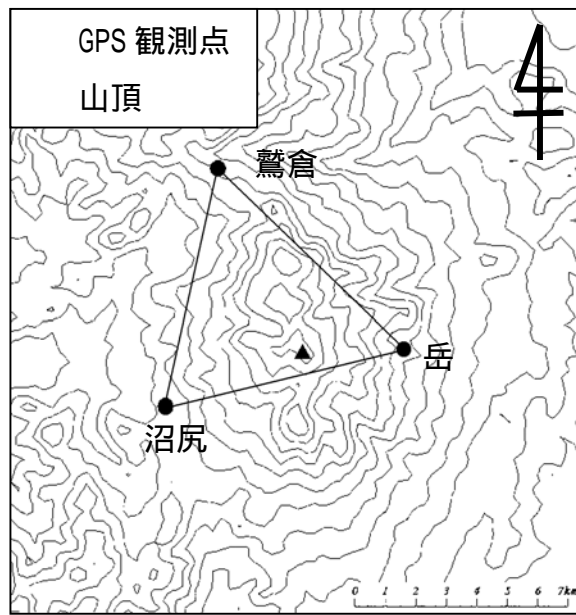


図5 GPS観測点配置図

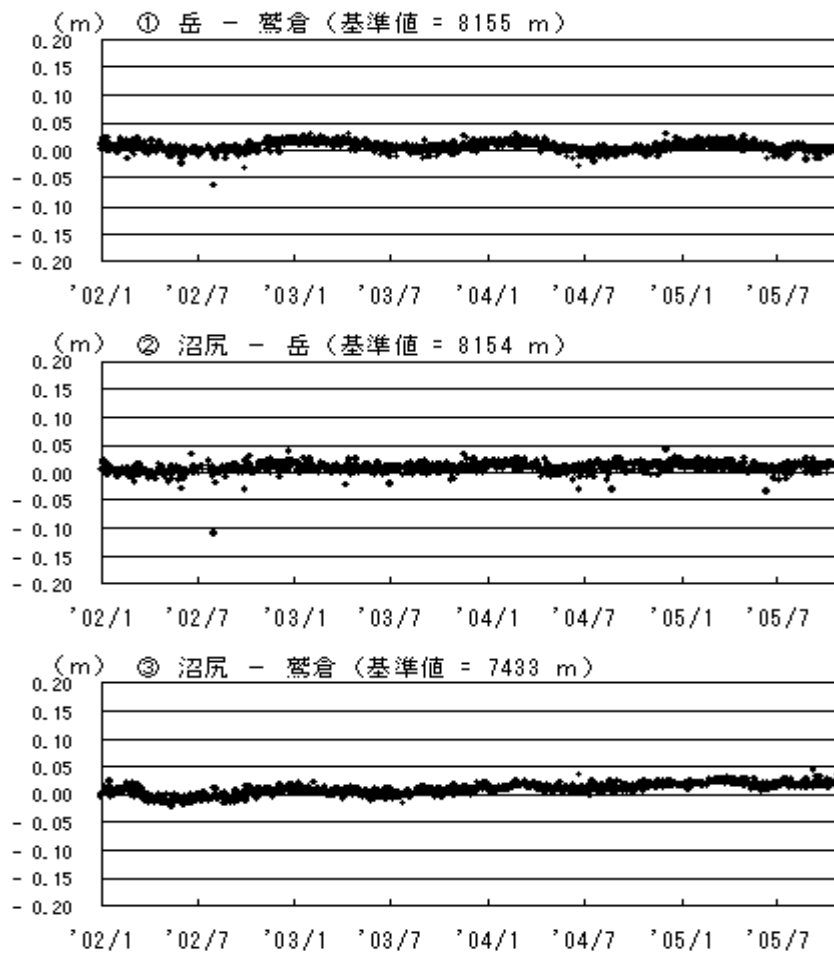


図6 GPS基線長変化図(2002年1月~2005年10月)

**地磁気全磁力観測の結果**

気象庁地磁気観測所が12日に実施した地磁気全磁力観測によると、沼ノ平火口付近の地下で、わずかな冷却を示す変化が継続しています。

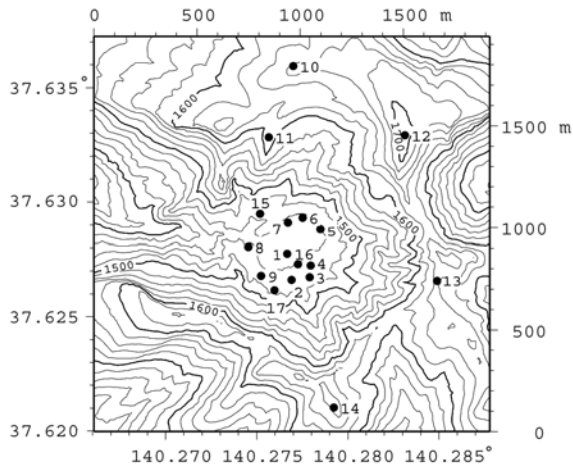


図7 全磁力観測点配置図

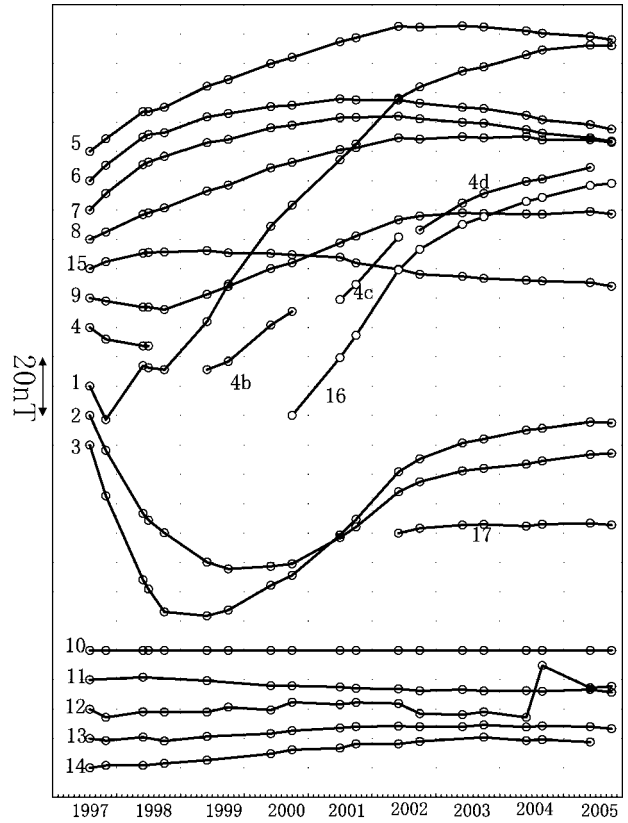


図8 全磁力繰返し観測結果（1997年～2005年）  
観測点10を基準とした各観測点の全磁力変化

注）火口の北側観測点で全磁力値に増加傾向（図中、上向き）南側観測点で減少傾向（図中、下向き）がみられた場合、火口直下での温度上昇が考えられます。

現地観測の結果

18、19日に沼ノ平火口を中心に現地観測を実施しました。沼ノ平火口付近の噴気活動は全般に低い状態で、噴気の高い所(Y-3 上部)で5m前後でした。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、引き続き沼ノ平南西変質地帯(Y-3)付近に地熱の高い領域が解析されましたが、熱異常領域及び噴気温度<sup>2)</sup>(94 )とも前回(平成17年5月)と比べ変化はありませんでした。

また、沼ノ平火口中央(Y-1)の噴気は今回も停止しており、地中温度<sup>2)</sup>も12 と低い状態で、引き続き静穏の状態が続いています。

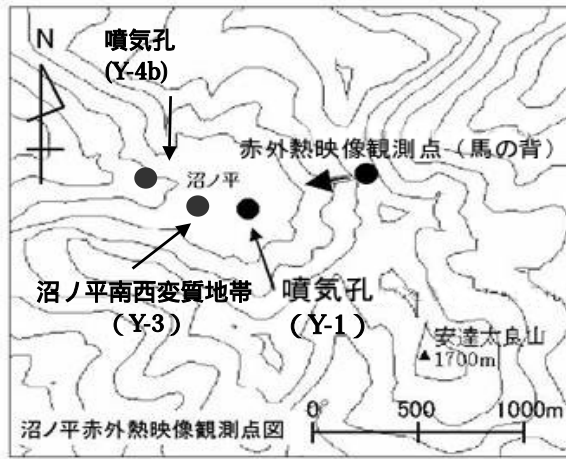


図9 沼ノ平 赤外熱映像観測点図  
(国土地理院 数値地図 50m メッシュ(標高)を使用)

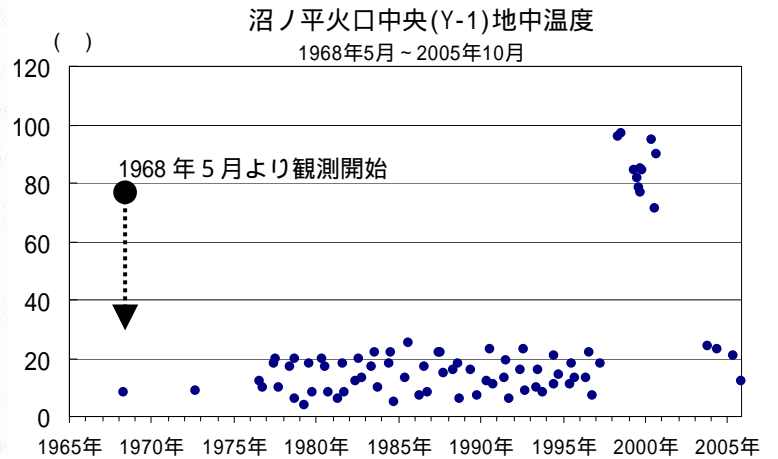


図10 沼ノ平火口中央(Y-1)の地中温度の変化図



(2005年5月25日撮影)



(2005年10月18日撮影)

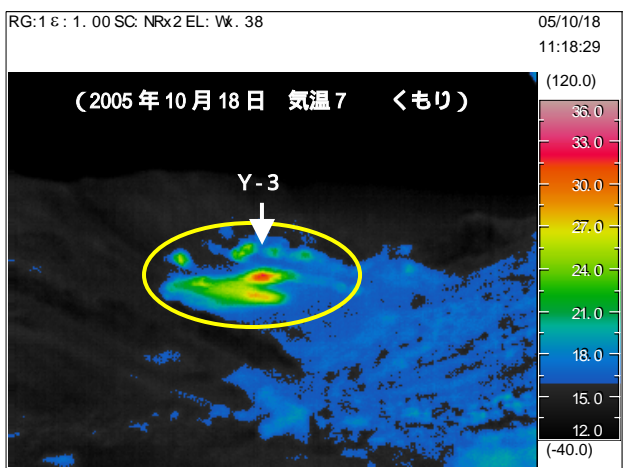
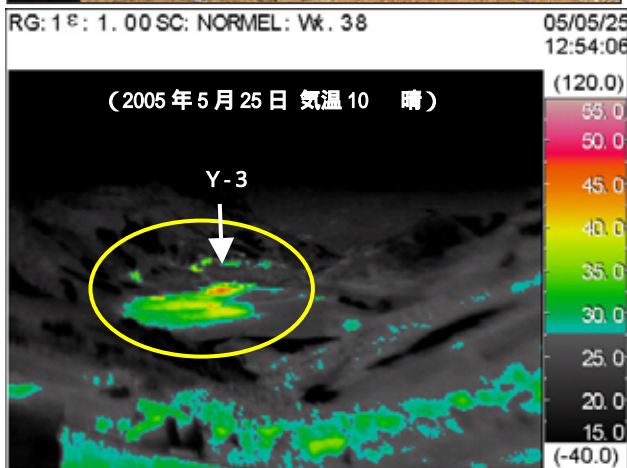


図11 沼ノ平の可視画像(上)と赤外熱映像画像<sup>1)</sup>(下)

(熱映像画像の円で囲まれた範囲以外の色のついた個所は日射の影響によるものです。)

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する機器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
- 2) サーミスタ温度計で測定。サーミスタ温度計は、センサーを直接熱源に当てて温度を測定する機器である。